二〇一〇年九月二二日（明日吟旅４参加者一七名）

山門を額ぶちとして稲田見ゆ　小袖
二面石彫のくずれに秋思憑く　〃
糸とんぼ川面を掠め掠め飛ぶ　〃
沢音の強弱もまた秋の声　〃
曼珠沙華藪の奥へと飛び火して　うつぎ
秋蝶のあち来こち来す二面石　〃
秋扇ついと閉まりし吟行子　〃
二面石見てより秋思始まれり　〃
道ゆずり合ひてハイカー爽やかに　かれん
対岸のなぞへを埋む曼珠沙華　〃
紫苑咲き破れ築地を隠しけり　きづな
岡寺と粧ふ山を指されけり　〃
稲田中ニュースを告ぐるスピーカー　ひろみ
黒土を乗せしまんまの菌あり　〃
明日香川木々を映して水澄める　百合
と見る間に草に紛れし秋の蝶　〃
甘樫の丘に秋風通ひくる　ひかり
ひらひらと万葉姫の蝶ならむ　〃
祖水路をた走しりて水澄めりけり　わかば
二面石我が胸に問ふ秋思かな　満天
明日香路楽し秋草あまた咲く　はく子
鶏頭は孤高の紅を極めけり　宏虎
黄金の稲田に浮ぶ古刹かな　せいじ
葛のつる飛鳥めぐりのバスに触れ　なな
古墳から古墳へ秋の遍路かな　つくし
川底にさす薄日や水澄める　ぽんこ

二〇一〇年九月二二日（明日吟旅３参加者一七名）

虫すだく森へ一閃朝日さす　わかば
色鳥来朝の光の洩る森へ　〃
朝日今谷戸の稲田にとどきたり　〃
真夜覚めて明日香の里の良夜かな　〃
一色にあらず棚田の稲なびく　こすもす
秋の蚊のあくびの口に飛び込みぬ　〃
豊年の棚田に朝日さしわたり　〃
展望の大和三山秋晴るる　〃
下界より声谺して山は秋　百合
窓開けて虫の声聴く旅の宿　〃
この森の葉擦れの音も秋の声　〃
ストーカーめきし秋の蚊払ひけり　〃
露天湯に肩のしずめば虫浄土　満天
虫の音の間遠となりて夢の中　〃
萩葎かきわけて訪ふ石舞台　〃
万葉のゆかりの橋に秋惜しむ　〃

寝惜しむ明日香の宿の虫浄土　よし子
高枝より鵙の高音や朝散歩　〃
遠山に雲棚びきて朝涼し　〃
くつきりと棚田耀く月今宵　宏虎
月白や万葉人の詠みし丘　〃
芝草の万朶の露に朝日射す　ひろみ
秋の水瀬石あらひて曲り行く　〃
露の道踏みて里山朝散歩　はく子
彼岸花つづる畦道朝散歩　〃
遠望に朝日弾くは鳥威　うつぎ
杉の秀の黒く聳ゆる月の影　〃
稔り田に天の香具山横たはる　小袖
落合ひの音露けしや玉藻橋　かれん
気をつけての声をうしろに虫の闇　明日香
案山子とも人ともつかず夜の明くる　有香
飛鳥野を隈なく照らす良夜かな　なな

二〇一〇年九月二一日（明日吟旅2参加者一七名）

近づきて案山子とわかる棚田かな　わかば
峠まで棚田を行けば秋暑し　〃
峠まで案山子路辺る棚田かな　〃
畦に立つわらべ案山子は赤い靴　なな
曼珠沙華いよよ夕日に燃えにけり　〃

筆先に似たる蕾や彼岸花　〃
畦道に案山子百態虫はやす　はく子
暮れ初めて峡田は虫の浄土かな　〃
秋天へ棚田幾枚数へけり　〃
落栗や農小屋なべてトタン屋根　きづな
どの道をとるも水音野路の秋　〃
かなかなや一と句会終ゆ裏山に　〃
明日香路連なり進む秋日傘　有香
目まとひを払ひ会釈を交す野路　〃
天高く直立したる飛行雲　こすもす
展望台棚田へつるべ落しの日　〃
たち並ぶ案山子ロードや峠道　明日香
秋夕焼なぞへに傾ぐ道祖神　〃
夕暮れの棚田棚田の虫の声　ひろみ
木々覆ひつくして葛の花匂ふ　〃
宿へとる道は一筋竹の春　かれん
落し水音孱孱と棚田道　〃
曼珠沙華棚田の畦を区切りけり　満天
案山子にはあらずカメラマン動く　〃
秋灯煤けきったる飛鳥仏　うつぎ
身にぞ入む頬傷深き飛鳥仏　〃
耳鳴りにあらずまつはる秋の蚊ぞ　せいじ

神の木の鼓動に聴かむ秋の声　百合
亀石を撫でて明日香の秋惜しむ　宏虎
秋の鐘一打首塚寧かれと　小袖

二〇一〇年九月二二日（明日吟旅1参加者一七名）

秋の蝶ついと消えたる草葎　宏虎
豊の秋ひろごる中に飛鳥寺　〃
石舞台そびらに歩む秋日傘　〃
乱れ萩展望台の径狭む　〃
神宮の神鼓の音や新松子　〃
秋蝶の黄をこぼしつつ過りけり　うつぎ
露けしき万葉の碑は相聞歌　〃
露の野に盤石おきし石舞台　〃
と見る間に棚田を隠し霧流る　〃
飛鳥路の棚田の天辺霧隠れ　〃
甘樫の丘に見おろす豊の秋　百合
秋しぐれ木々の葉色の斑なる　〃
石舞台囲む山並空澄める　〃
蜘蛛の囲が揺りかごめける枯葉かな　こすもす
見上げれば病葉多き古木かな　〃
近道はマムシ注意の札の立つ　〃
高塀の外へさゆらぐ百日紅　わかば
法面の一叢そよぐ花薄　〃
萩葎枝垂れて風の生れけり　〃
石舞台そよ吹く風にあきつ舞ふ　満天
百選の棚田も今は豊の秋　〃
秋暑したのむ木々なき石舞台　〃
ホ句の道初めて拾ふ落としぶみ　ひろみ
たわわなる桐の実丘を埋むかに　〃
ハイカーに手を振る明日香野路の秋　有香
曼珠沙華供花に挿されし石舞台　〃
石舞台秋つ光を集めをり　小袖
水澄みて真砂の見ゆる飛鳥川　〃
道路鏡映す棚田の彼岸花　かれん
露草や一過の雨に瑠璃深む　〃
飛鳥路の亀バス待つ間秋しぐれ　なな
村人のすぐそこ遠し彼岸花　〃
音たてて走る疎水秋高し　きづな
豊の秋大和三山見ゆる丘　はく子
山峡に煙ひとすじ里の秋　明日香

吟行句会みのる選

二〇一〇年九月二二日（明日吟旅4参加者一七名）